

人生のすべてを 「速く書く」ことに

人呼んで「速記の神様」

勲五等双光旭日章

中根 正世さん(む)

「こんどの受章はみなさんのお



中根 正世さん

かげで……」——こう言い終わら
ないうちに熱っぽい速記論が始ま
る。この道五十八年。人は中根さ
んを「速記普及の神様」という。
「文字には止、速、美の三つの

大切なものがあるが、日本では
「速」つまり速く書くことは他の
二つにくらべ非常に後れてるんで
す。私は現代を「旺歴(ようれ
き)時代」とよく言っんです。速
く書く便法として使う略字もせい
ぜい「旺」や「歴」とまりなんで
すね。もっと大胆に略し、書く
スピードを上げなければ……」
——酒もタバコも、遊びことも
一切やらない。人生のすべてを
「速く書く」ことだけにかけてき
た。

大正三年、突兄、正親氏(ハシ)が
創案した「中根式速記」を最も簡
明な形に改良し、昭和四年には速
記学校中の老舗「中根速記学校」
を東京で創立した。同時に速記普
及の「全国講演行脚」にはいった
が「人間は書くことから一生離
れられないのだから、速く書くこ
とを覚えてほしい。私が目指した
のは「速記国建設」でした」とそ
の動機を説明する。いまでも月に二
十日は各地の講演に出かけるとい
い、これまでの講演回数、数万
回。受講者もすでに五百万人。速
記の本流として、いまでは自衛
隊、警察学校の正科にも採用され
ている。

昭和三十三年にはだれでもすぐ
使える「簡易速記」を創案、この
九月に、その入門書を出した。や
さしく書くことが楽しくなる本だ
が、本人は「簡略に書く」こと
に終わりはない。まだまだ不十分
で……」。速記学校の運営はすべ
て子役に任せているが「体の続く
限りの速記の大衆化に努めます」
と語り、「速記一途」の人であ
る。